



第37期第3四半期 決算補足資料

テクマトリックス株式会社

- ◆ 2021年3月期1Qより、企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」及び企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」を早期適用しております。

連結業績（第3四半期累計）

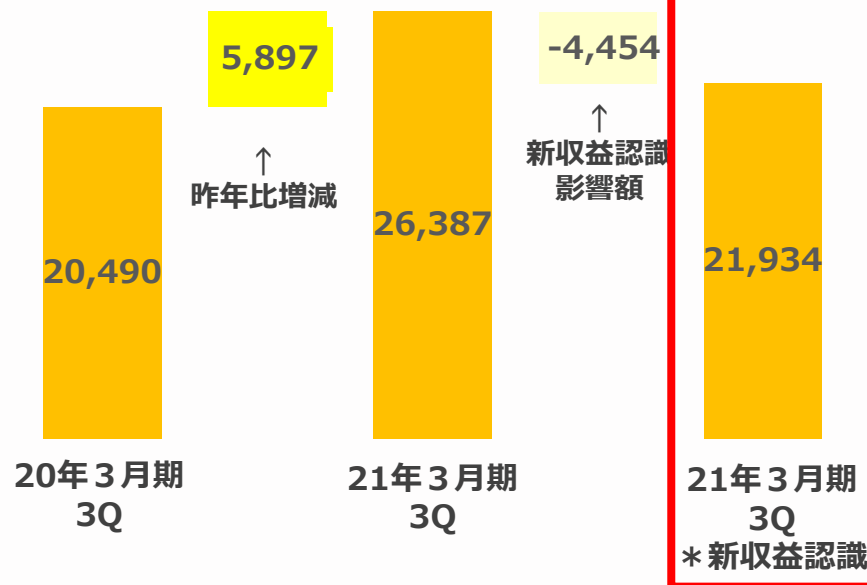
◆ 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも**過去最高**を記録。

	2020年3月期 Q3累計	2021年3月期 Q3累計 * 新収益認識後	増減額	増減率
売上高	204億90百万	219億34百万	+14億43百万	+7.0%
営業利益	21億01百万	26億25百万	+5億24百万	+25.0%
経常利益	20億94百万	26億23百万	+5億28百万	+25.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13億58百万	17億17百万	+3億59百万	+26.5%

連結売上高・営業利益（第3四半期累計）

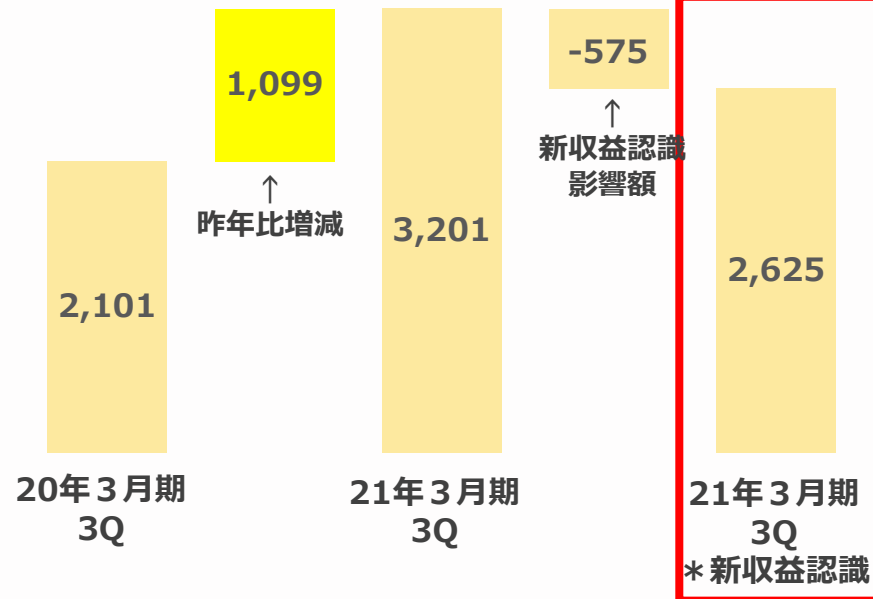
売上高

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



	20年3月期3Q累計	21年3月期3Q累計 (下段：新収益認識)	増減額 (下段：新収益認識比)	増減率 (下段：新収益認識比)
売上高	204億90百万	263億87百万 219億34百万	+58億97百万 +14億43百万	+28.8% +7.0%
営業利益	21億01百万	32億01百万 26億25百万	+10億99百万 +5億24百万	+52.3% +25.0%

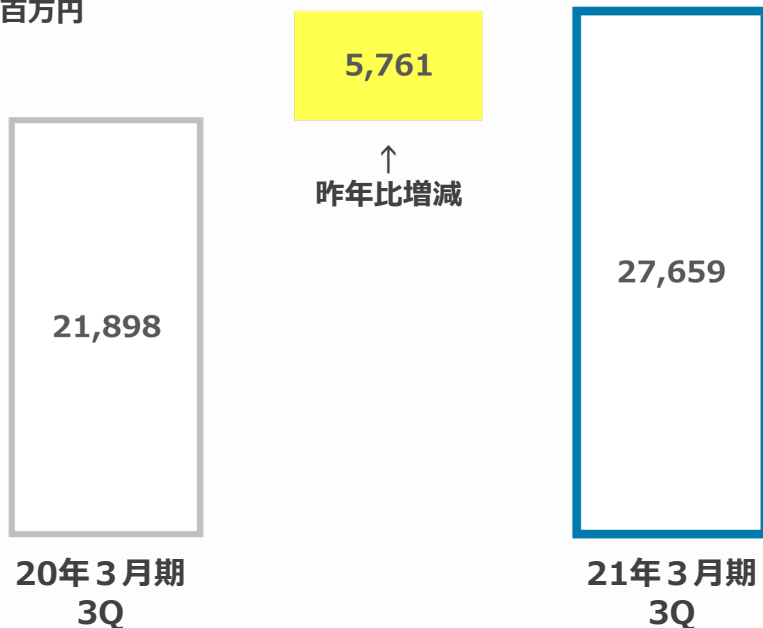
◆ 新収益認識基準の適用により、保守込みの製品販売やサブスクリプション等の期間限定ライセンスの収益認識のタイミングを厳格化し、履行義務が充足される期間に対応した収益認識を行います。

- ◆ 受注高は、対前年同期比で情報基盤事業を中心に増加。
- ◆ 新収益認識基準適用により、保守一体の製品販売及びサブスクリプションの充足されていない履行義務は、収益として認識しないため受注残となる。＊収益認識基準の変更に伴う収益の影響額は、当期首の利益剰余金を加減し、当期に充足される履行義務は当期で収益認識。

全社合計

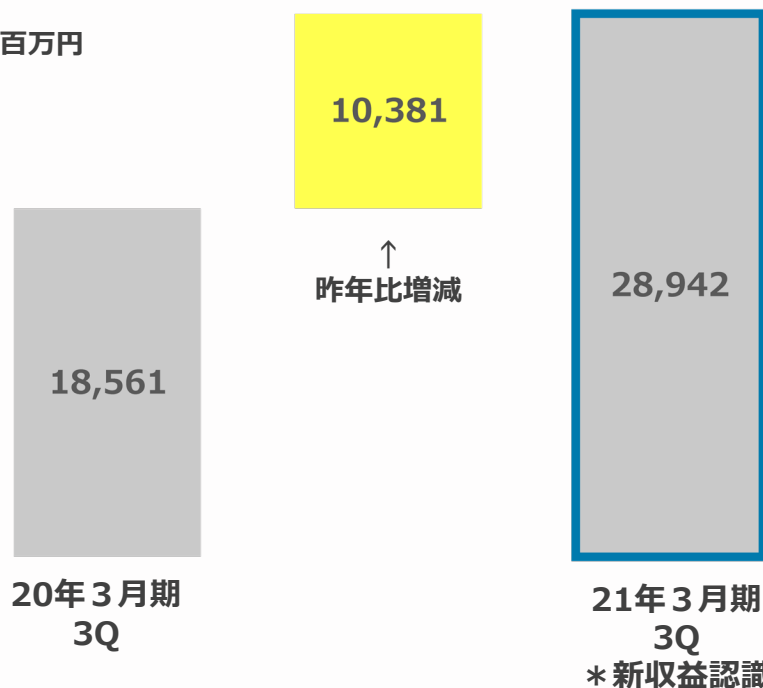
受注高

単位：百万円



受注残高

単位：百万円

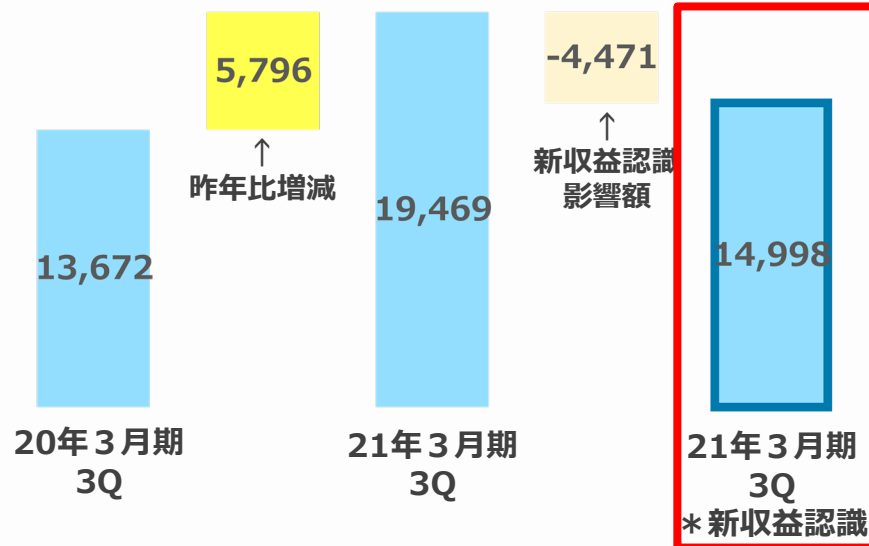


連結セグメント別 売上高（第3四半期累計）

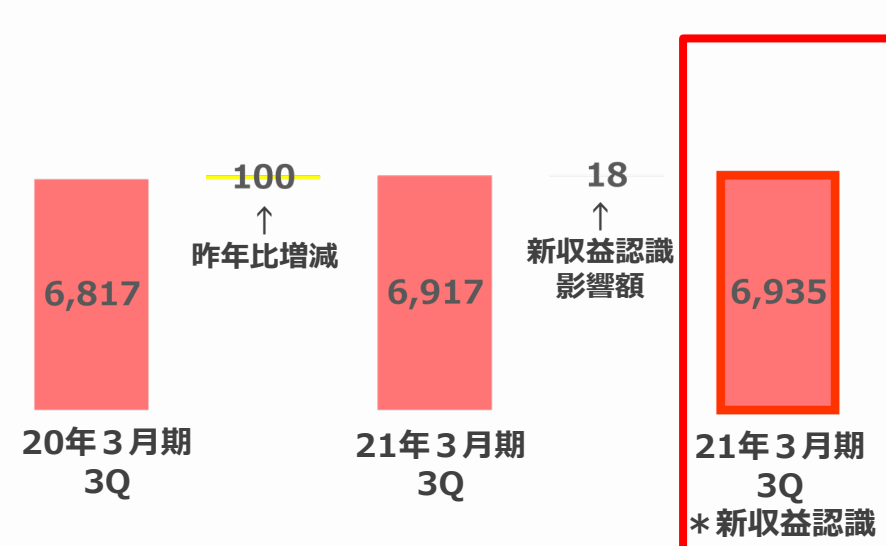
情報基盤事業

アプリケーション・サービス

単位：百万円



単位：百万円



	20年3月期3Q累計	21年3月期3Q累計 (下段：新収益認識)	増減額 (下段：新収益認識比)	増減率 (下段：新収益認識比)
情報基盤事業	136億72百万	194億69百万 149億98百万	+57億96百万 +13億25百万	+42.4% +9.7%
アプリケーション・サービス事業	68億17百万	69億17百万 69億35百万	+1億00百万 +1億18百万	+1.5% +1.7%

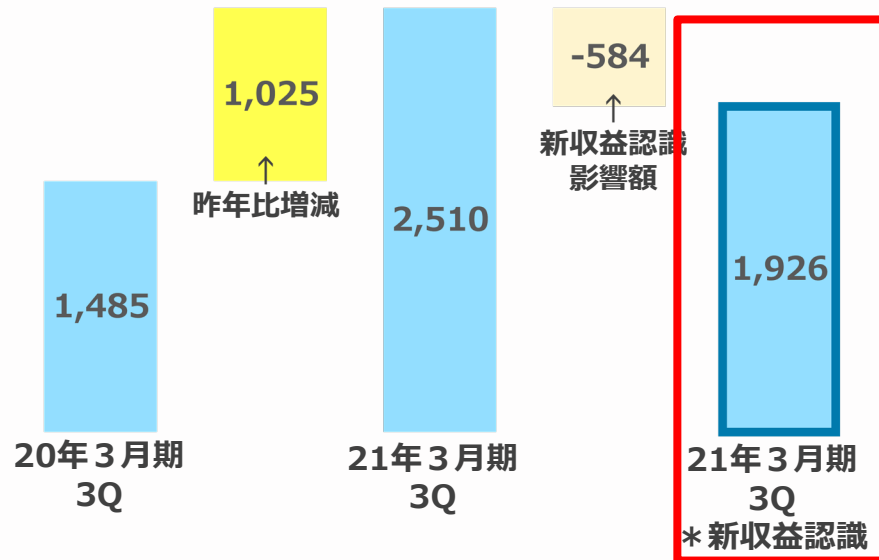
- ◆ 情報基盤事業： 売上高は過去最高を記録。クラウド型のセキュリティ製品の引合いが増加。SASE関連で大型案件を受注。リモートアクセス関連製品は、20年3月期Q4からの好調なトレンドが続く。
- ◆ アプリケーション・サービス事業： 売上高は過去最高を記録。医療分野が好調。CRM分野は堅調に推移。ソフトウェア品質保証分野は対面市場の投資抑制の影響を受ける。

連結セグメント別 営業利益（第3四半期累計）

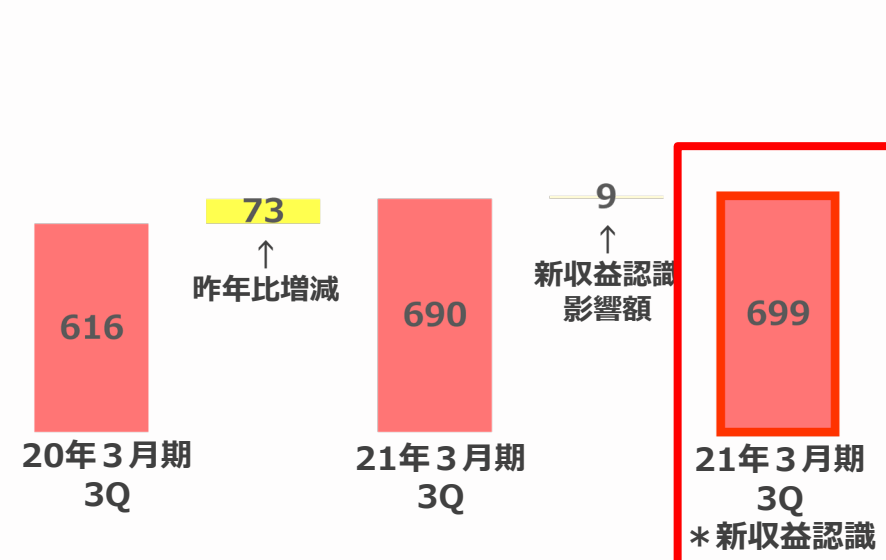
情報基盤事業

アプリケーション・サービス

単位：百万円



単位：百万円

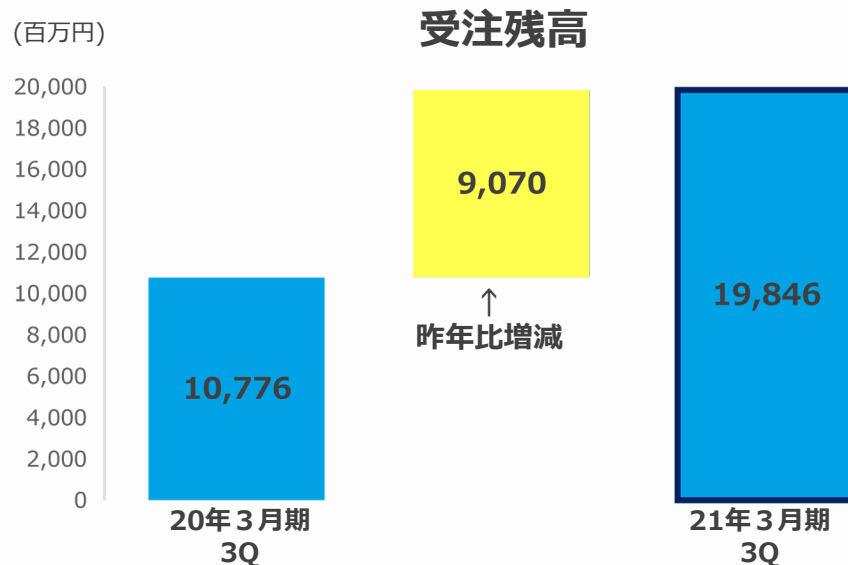
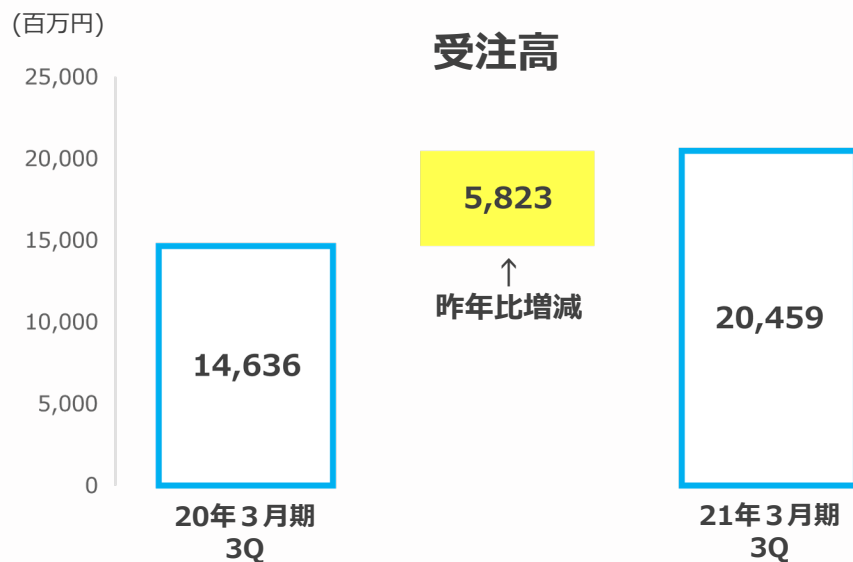


	20年3月期3Q累計	21年3月期3Q累計 (下段：新収益認識)	増減額 (下段：新収益認識比)	増減率 (下段：新収益認識比)
情報基盤事業	14億85百万	25億10百万 19億26百万	+10億25百万 +4億41百万	+69.1% +29.7%
アプリケーション・サービス事業	6億16百万	6億90百万 6億99百万	+73百万 +82百万	+12.0% +13.4%

◆ 情報基盤事業、アプリケーション・サービス事業ともに増益。いずれも、営業利益は過去最高を記録。

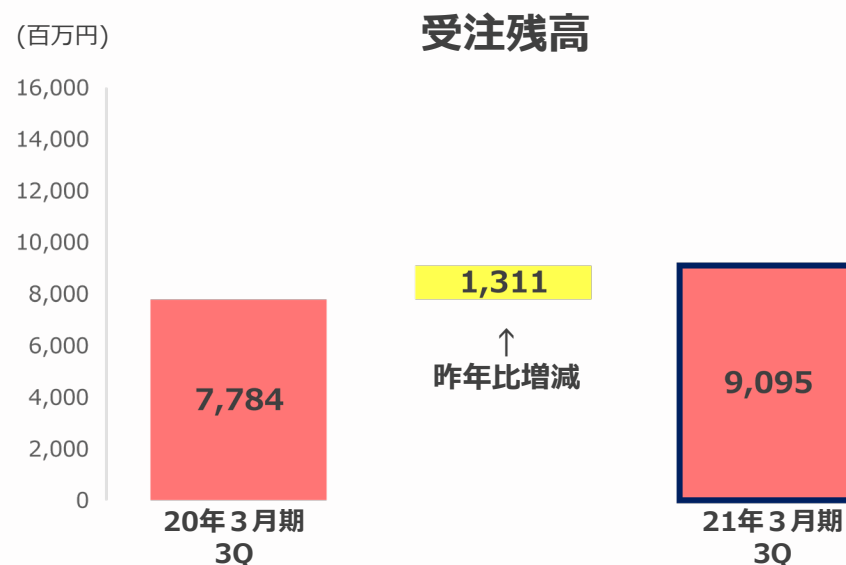
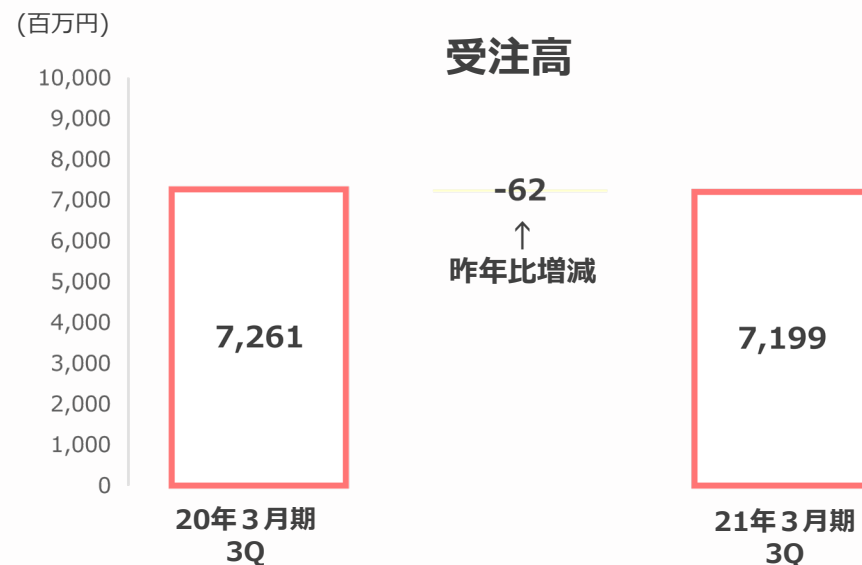
受注高と受注残高

情報基盤事業



* 新収益認識

アプリケーション・サービス事業

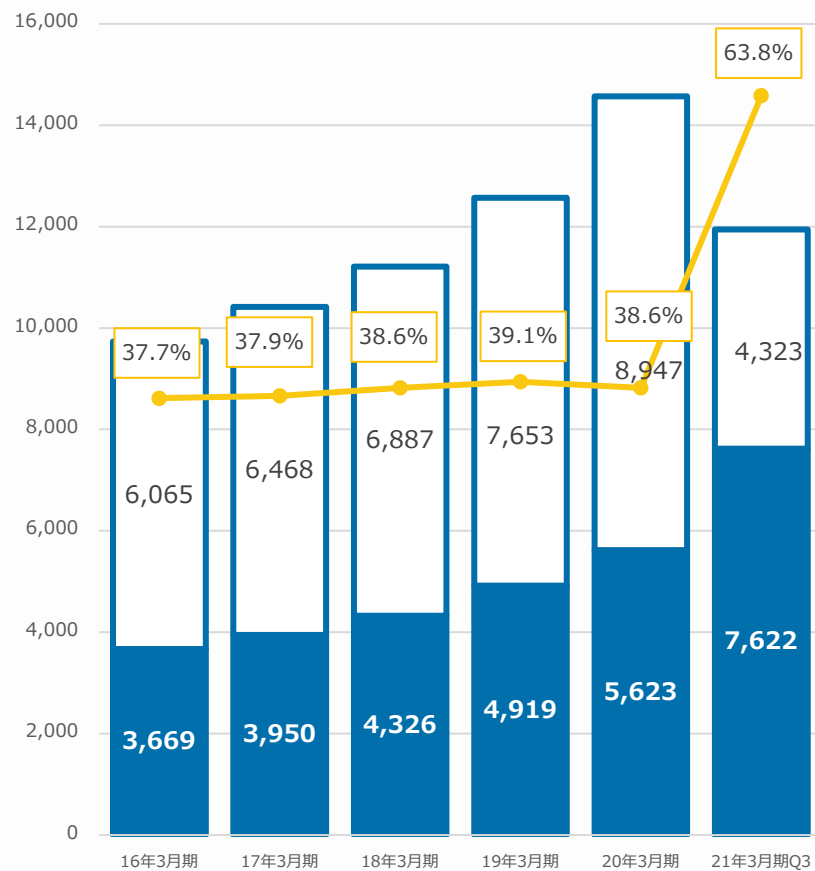


* 新収益認識

ストック比率の進捗状況（単体+株式会社NOBORI）

情報基盤事業

(百万円)



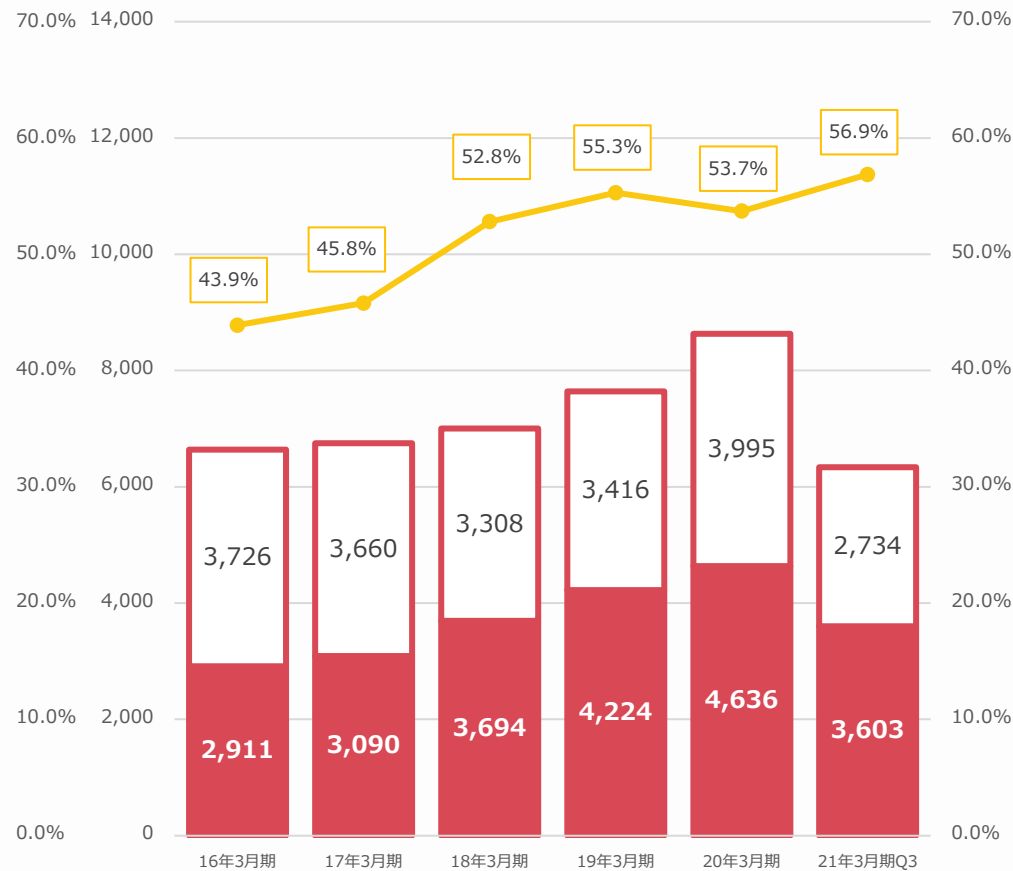
*新収益認識後

■ ストック ■ 非ストック —●— ストック割合

*新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（主に保守一体の製品販売や一部のサブスクリプション型）を厳格にストック計上。これにより、情報基盤事業のストック比率が向上。

アプリケーション・サービス事業

(百万円)



*新収益認識後

■ ストック ■ 非ストック —●— ストック割合

*新収益認識基準適用により、これまでフローとして計上していた売上（主にデストツールの売上）を厳格にストック計上。従前からのクラウドビジネスの積み上げも奏功し、アプリケーション・サービス事業は、ストック比率が向上。